

〈スケジュール例〉

実施形態	Week 1 Fukuoka JST	Monday 2/12	Tuesday 2/13	Wednesday 2/14	Thursday 2/15	Friday 2/16	Saturday 2/17	Sunday 2/18	
オンライン (Zoom)	8:30-11:45 休憩含む	サンノゼ州立大学が実施するオンライン英語研修 (全員参加)							
	Week 2 Fukuoka JST	Monday 2/19	Tuesday 2/20	Wednesday 2/21	Thursday 2/22	Friday 2/23	Saturday 2/24	Sunday 2/25	
	8:30-11:45 休憩含む	サンノゼ州立大学が実施するオンライン英語研修 (全員参加)							
San Jose (対面 & オンライン)	Week #3 Fukuoka JST	Monday 2/26	Tuesday 2/27	Wednesday 2/28	Thursday 2/29	Friday 3/1	Saturday 3/2	Sunday 3/3	
	8:30-11:45 休憩含む	サンノゼ州立大学が実施するオンライン英語研修 (全員参加)						日本出発	サンノゼ到着 現地3/2
	Week #4 San Jose PST	Monday 3/4	Tuesday 3/5	Wednesday 3/6	Thursday 3/7	Friday 3/8	Saturday 3/9	Sunday 3/10	
	9:00-12:15 (変更の可能性有)	米国、サンノゼ州立大学での対面での英語研修 (全員参加:対面およびオンライン)						Yosemite Tour (オプション)	Yosemite Tour (オプション)
	滞在先	現地一般家庭でのホームステイ							
Fukuoka 九大 伊都キャンパス (対面)	Week #5 San Jose PST	Monday 3/11	Tuesday 3/12	Wednesday 3/13	Thursday 3/14	Friday 3/15	Saturday 3/16	Sunday 3/17	
	9:00-17:00	米国、サンノゼでのField Tripおよび講演 (短期留学生のみ)						サンノゼ出発(深夜)	機中
	滞在先	現地一般家庭でのホームステイ							
	Week #6 Fukuoka JST	Monday 3/18	Tuesday 3/19	Wednesday 3/20	Thursday 3/21	Friday 3/22	Saturday 3/23	Sunday 3/24	
		日本到着 (午前中)							
Fukuoka 九大 伊都キャンパス (対面)	Week #7 Fukuoka JST	Monday 3/25	Tuesday 3/26	Wednesday 3/27	Thursday 3/28	Friday 3/29	Saturday 3/30	Sunday 3/31	
	10:00-18:00	仮想起業プログラム(ZTO)とはZero To Oneの略で、 「全く何もないところから何かを作り出す」という作業を 「デザイン思考」という手法を学びながら行うワークショップです。(全員参加)							

- 効果 ★英語力をブラッシュアップできる(実践的な英語が学べる)
 ★国際交流できる(国外の新しい友人ができ、新しい交流の輪が得られる)
 ★シリコンバレーの第一線の方から話を聞くことで世界が見えるようになる
 ★どのようにしてイノベーションを起こせるかがわかるようになる
 ★これらを経験することで自分の生き方や本格的キャリアを考えるようになる

— 昨年度ELEPハイブリッド参加学生の声 —

〈英語研修〉

- 英語力があまり高くないため初めはついていけないと感じたが、日にちを重ねるごとに慣れていき、数週間の研修を終えた時に英語が上達したと実感できた。

〈現地大学生との交流〉

- 同世代であるからこそ話しやすい世間話や趣味の話ができたのがよかった。パートナーの人も一生懸命話している内容を理解しようとしてくれていたのが伝わって、こちらも話したい気持ちが高まった。

〈シリコンバレー研修〉

- シリコンバレーで起業家が多い理由が理解できて、もっと国外に目を向けたいと思うようになった。

〈ZTO〉

- 元々は正直起業に興味は無かったので大変そうだな~としか思っていなかったが、ZTOを通して起業だけでなく普段の生活に活かせることをたくさん学ぶことができた。特に、他の参加者の方々から刺激を受けることができたのが一番良かった。

〈参加後の変化〉

- 自分の将来のキャリアを考えるようになった。与えられた場所で最大限頑張るのではなく、最大限頑張る場所を自分で選ぶという考え方が新鮮だった。